

2017年9月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、大西洋～中央シベリアで波列パターンが卓越し、バレンツ海で明瞭な正偏差、ヨーロッパ中部、中央シベリア南部で負偏差となった。日本付近では、中国東部～日本の南海上で正偏差、北日本を中心に負偏差となった。200 hPa 風速をみると、偏西風は中国付近で平年と比べて強く、日本付近～太平洋では平年の位置と比べて南寄りを流れた。海面気圧は、バレンツ海で正偏差、東シベリア西部で負偏差が明瞭だった。また、太平洋高気圧は平年と比べて日本の南海上へ張り出した。850 hPa 気温は、グリーンランドの東、ヨーロッパ東部～トルコ、中国東部で高温偏差、ヨーロッパ西部、西シベリアで低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インドネシア付近と北大西洋西部で活発、南シナ海～北太平洋西部の北緯20度帯で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半にインド洋～インドネシア付近を東進した。対流圏上層では、インド洋の広い範囲で高気圧性循環偏差となるとともに、チベット高気圧は北東への張り出しが平年と比べて強かった。対流圏下層では、太平洋の広い範囲で高気圧性循環偏差となった。海面気圧は、日本の南海上で正偏差、インド洋で負偏差となった。南方振動指数は+0.6だった。

世界の天候

2017年9月の世界の月平均気温偏差は+0.34°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、4番目に高い値となった。9月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.65°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

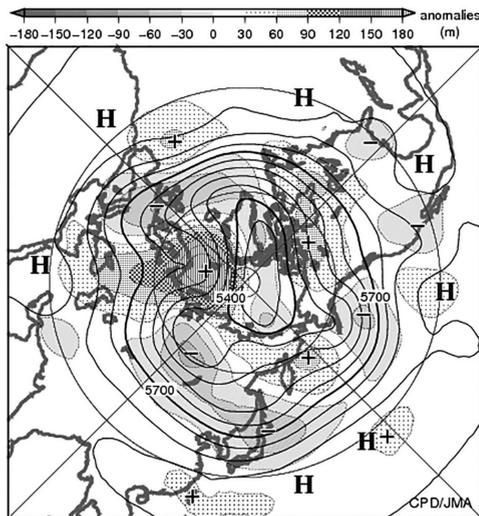
- 沖縄地方～中国南東部、中国北部、中国南西部で異常高温となった。
- ヨーロッパ南東部～トルコ、ノルウェー～グリーンランド北東部で異常高温となり、ヨーロッパ東部で異常多雨、イベリア半島～アルジェリア北部で異常少雨となった。
- モーリシャス～モザンビーク北部で異常高温となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

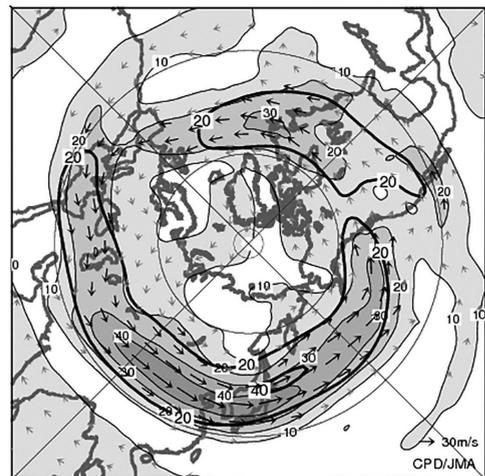
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



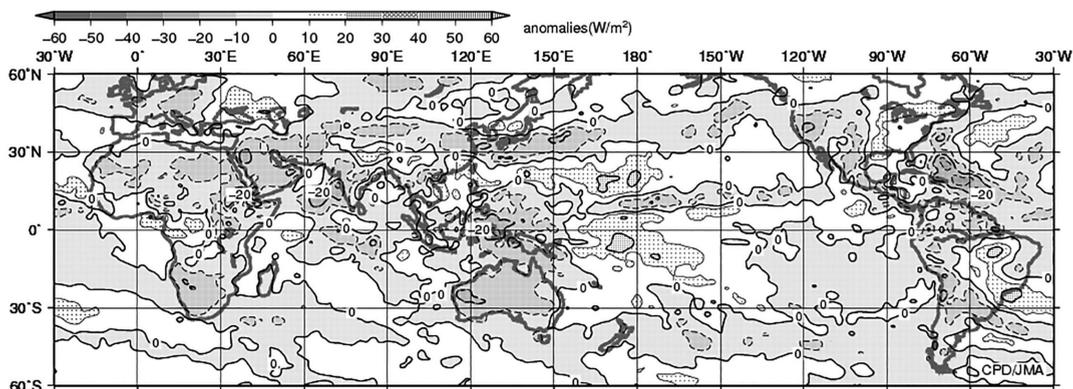
2017年9月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

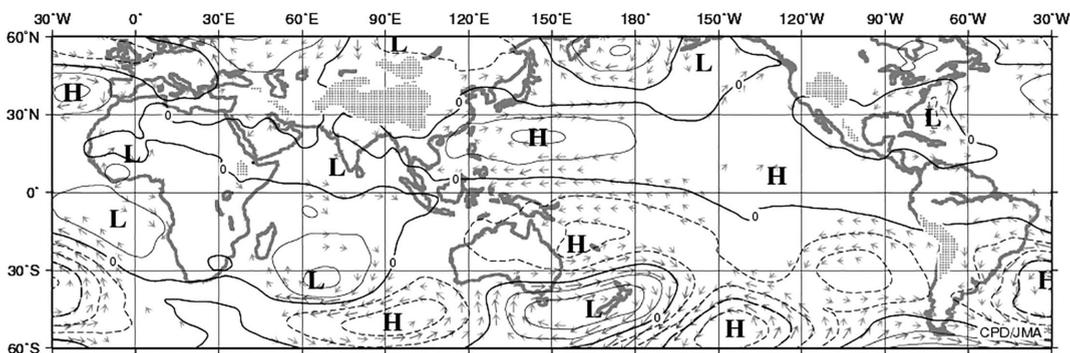


2017年9月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

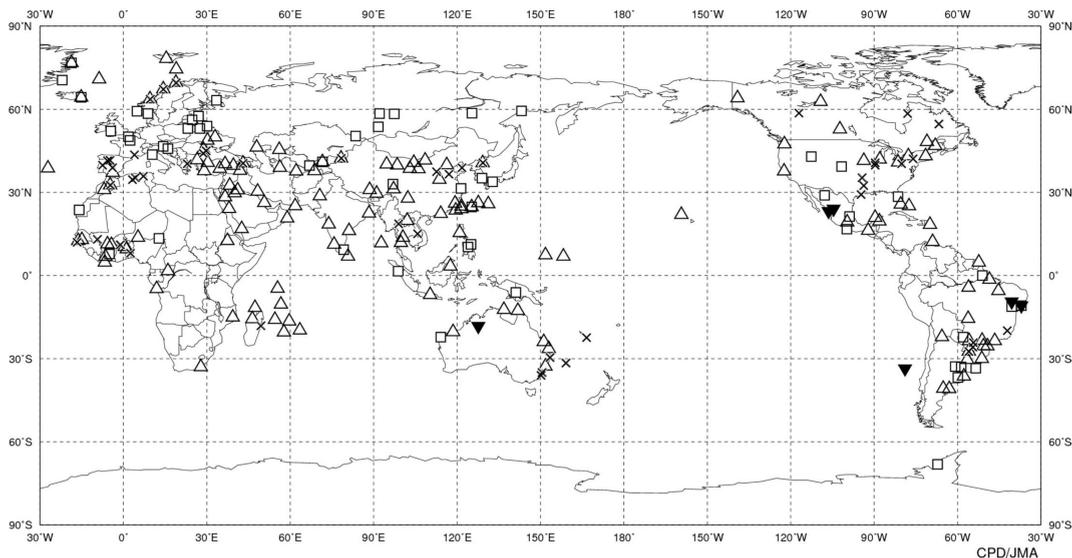
等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2017年9月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋
 大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2017年9月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、年偏差は1981~2010年の平均値。



2017年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。